

近世の奄美・沖縄の世界



神奈川大学非文字資料研究センター 2014年度 第5回公開研究会

『日本近世生活絵引』奄美・沖縄編

からみえる近世の奄美・沖縄の世界

2015年3月21日(土) 10:00~17:00

神奈川大学 横浜キャンパス 3号館405室

後援：沖縄県立博物館・美術館 浦添市美術館 石垣市教育委員会 名護博物館

資料提供：浦添市美術館 石垣市立八重山博物館 名護博物館

参加自由/事前申し込み不要

(問い合わせ先)

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1

神奈川大学日本常民文化研究所 非文字資料研究センター事務室

Tel: 045-481-5661 (内線3532) Fax: 045-491-0659

<http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/> <http://www.kanagawa-u.ac.jp/>



琉球交易港図屏風 浦添市美術館蔵

報告者：

富澤達三 (非文字資料研究センター)

豊見山和行 (琉球大学)

得能壽美 (法政大学沖縄文化研究所)

川野和昭 (南方民俗文化研究所)

コメンテーター：

安里進 (沖縄県立博物館・美術館)

田名真之 (沖縄国際大学)

真栄平房昭 (琉球大学)

本村育恵 (青山学院大学大学院)

コーディネーター：

小熊誠 (神奈川大学) 渡辺美季 (東京大学)

【開催趣旨】

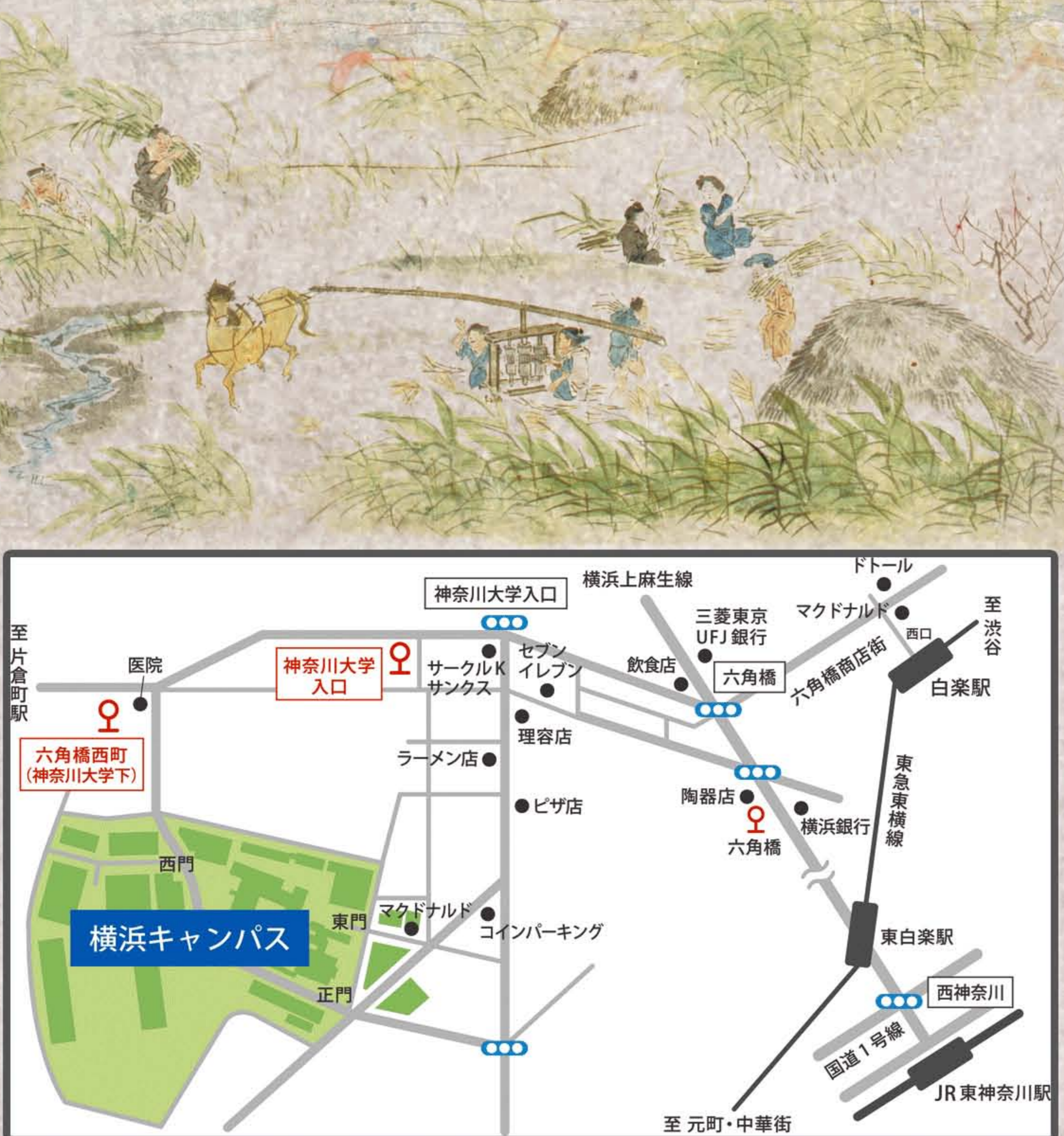
神奈川県立神奈川大学非文字資料研究センターでは、日本常民文化研究所が行った『絵巻物による日本常民生活絵引』の研究から受け継いだ

「日本近世生活絵引」の研究を継続的に行ってまいりました。

絵引研究とは、近世に描かれた絵画を題材として、そこに描かれた人々のしぐさやモノに対してその名称を記し、当時の庶民の生活を歴史的にも民俗的にも生き生きと描き出そうという趣旨の研究です。

2011年度から3年かけて、『日本近世生活絵引』奄美・沖縄編の研究・編纂をすすめ、2014年3月にそれが出版されました。その研究成果報告会を、2014年10月に地元沖縄県立博物館・美術館で開催し、150名以上が参加し大成功を収めました。

今回はさらに、神奈川県立神奈川大学において公開研究会を行い、絵引研究に興味のある方々だけでなく、奄美・沖縄研究に携わっている、より多くの方々に本研究の成果を報告し、討論したいと思います。



《プログラム》

開会挨拶：内田青蔵（非文字資料研究センター長）

開催趣旨説明：小熊誠（非文字資料研究センター研究員）

報告：

「絵引研究について」

富澤達三（非文字資料研究センター客員研究員）

「琉球交易港図屏風からみる琉球の世界」

豊見山和行（琉球大学 教授）

「八重山蔵元絵師画稿からみる八重山の世界」

得能壽美（法政大学沖縄文化研究所 兼任所員）

「琉球島真景からみる奄美の世界」

川野和昭（南方民俗文化研究所 主宰）

コメント：

安里進（沖縄県立博物館・美術館長）

田名真之（沖縄国際大学総合文化研究所 教授）

真栄平房昭（琉球大学 教授）

本村育恵（青山学院大学大学院文学研究史学専攻 博士後期課程）

コーディネーター：

小熊誠（神奈川県立神奈川大学大学院 教授）

渡辺美季（東京大学大学院 准教授）